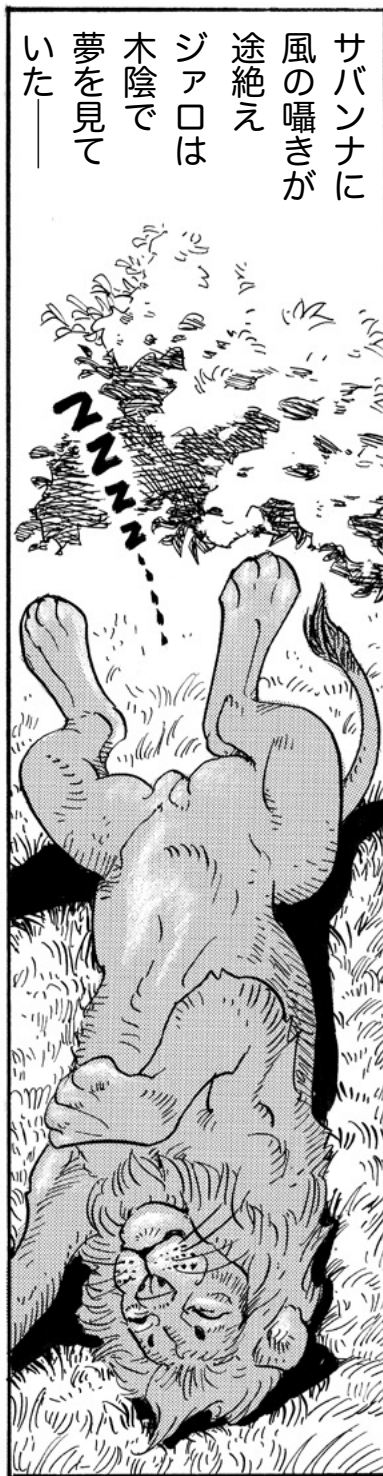
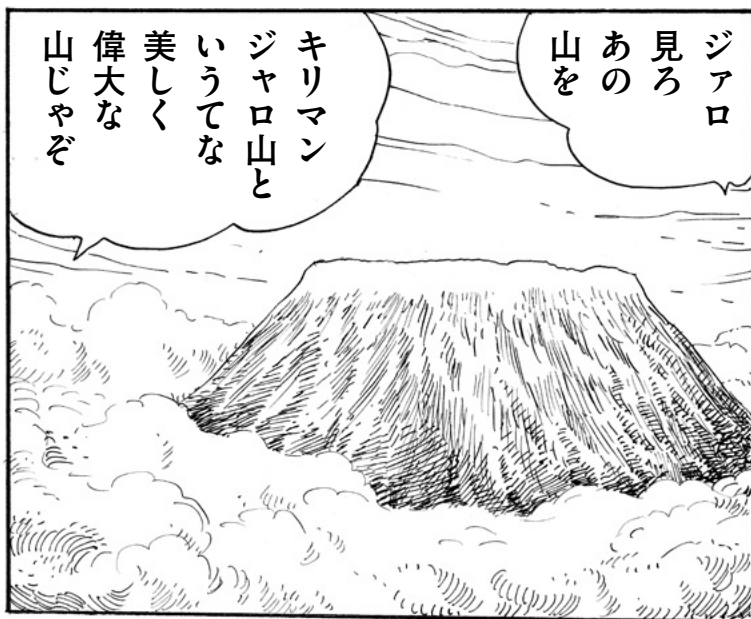
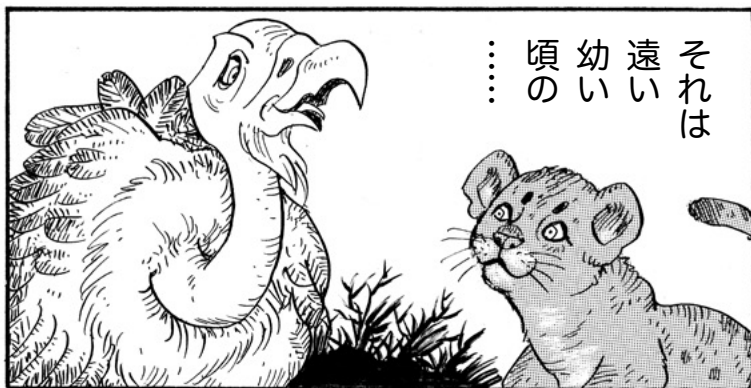
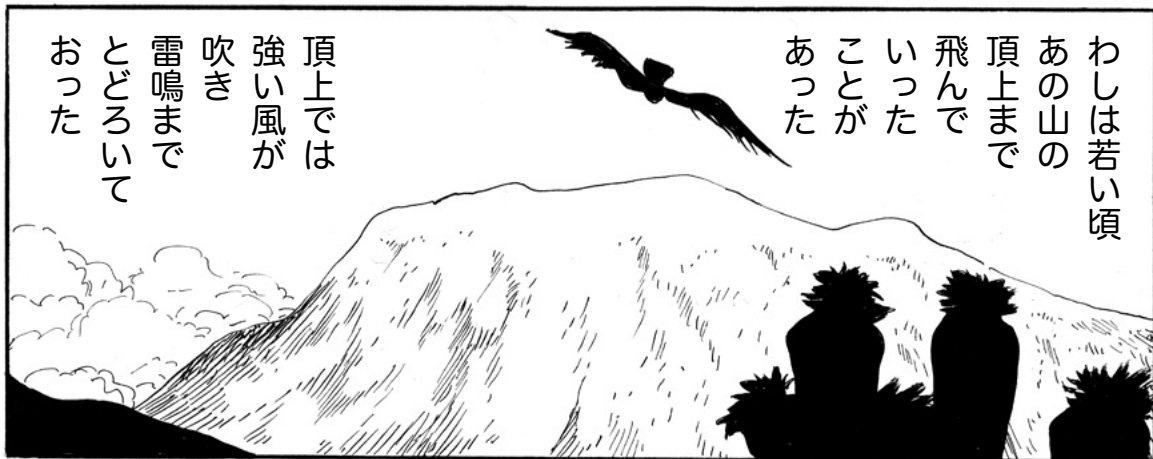


JARO

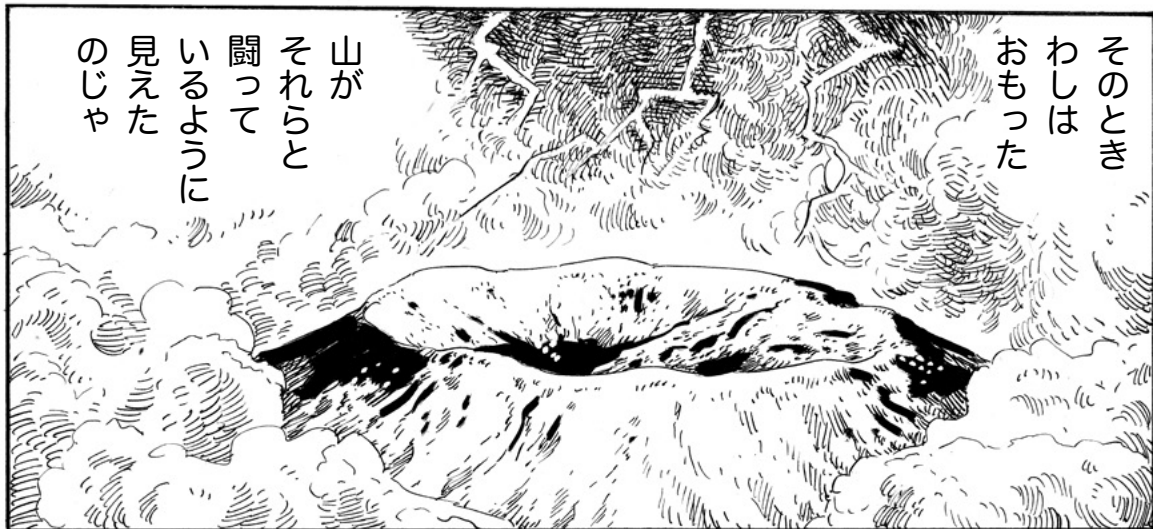
No.3
KEN
TANAKA





わしは若い頃
あの山の
頂上まで
飛んで
いった
ことが
あった

頂上では
強い風が
吹き
雷鳴まで
とどろいて
おった



そのとき
わしは
おもった

山が
それらと
闘って
いるように
見えた
のじゃ

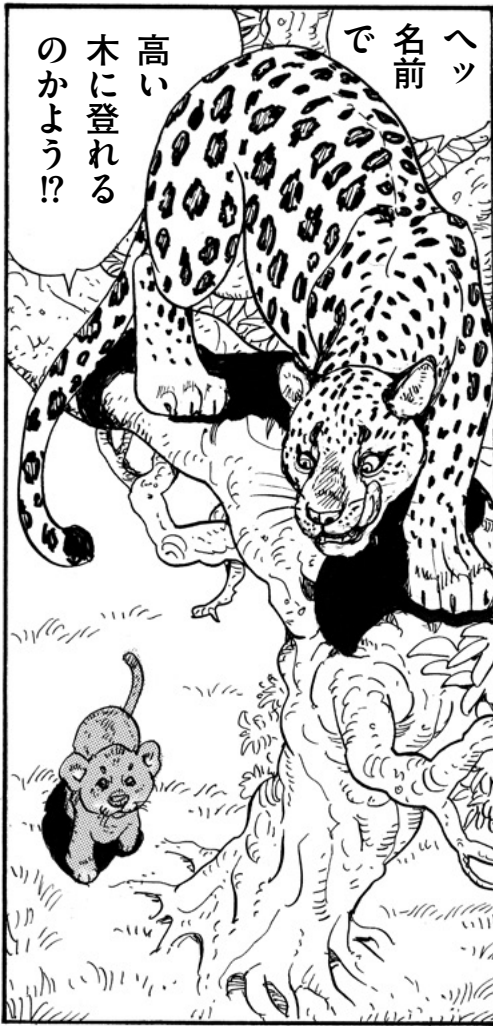


ジャロ
忘れる
なよ
おまえは
偉大なる
キリマン
ジャロ山の
ジャロ
なのじゃ
!



その瞬間
わしは
その美しさと
偉大さに

納得
したん
じゃ!



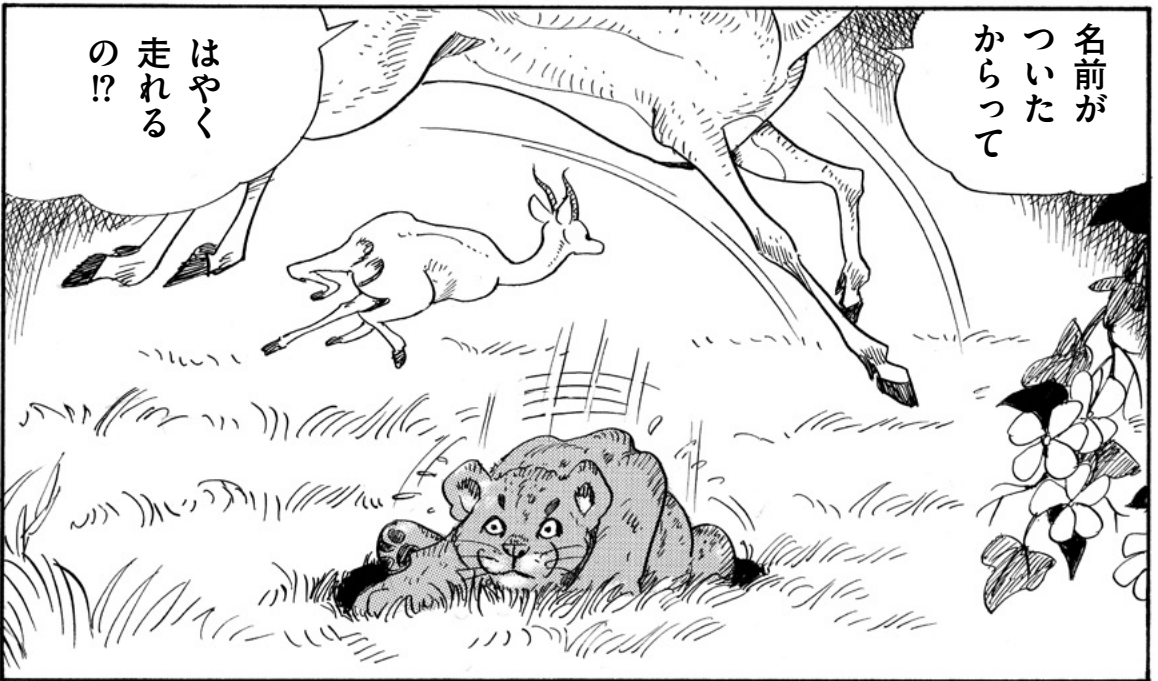
ヘッ
名前
で
高い
木に
登れる
のか
よう!?



ぼく
名前が
ある
んだよ
ジ
ア
ロ
と
い
う
ん
だ

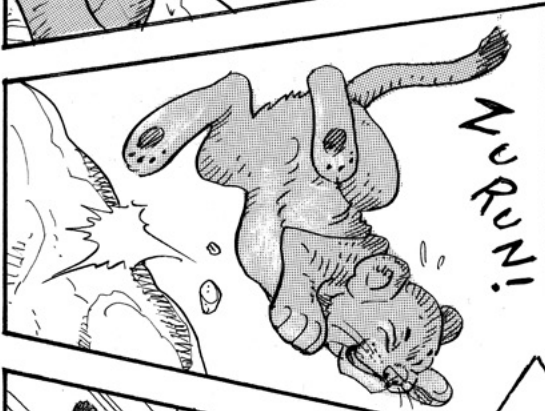
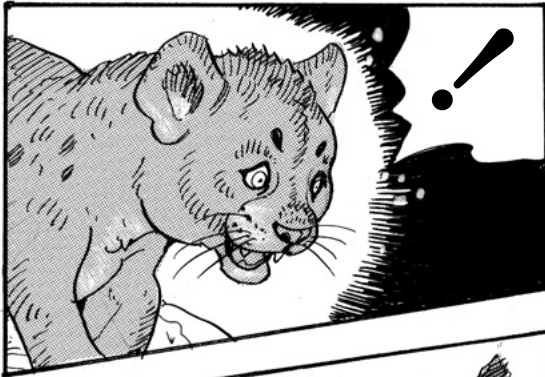
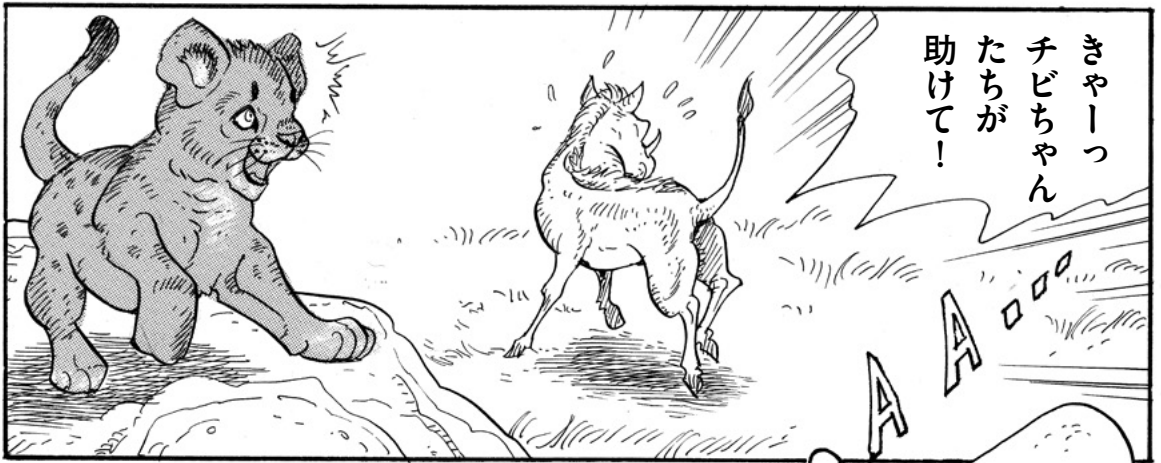


ふ
ー
ん
名
前
で
エ
サ
が
と
れ
る
の
か
ね
え



は
や
く
走
れ
る
の
!?

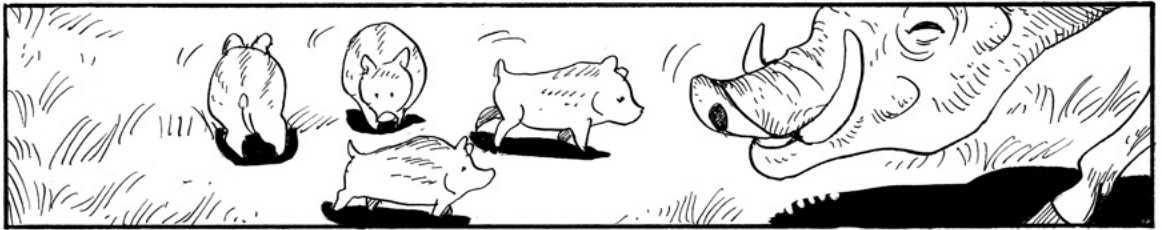
名
前
が
つ
い
た
か
ら
つ
て





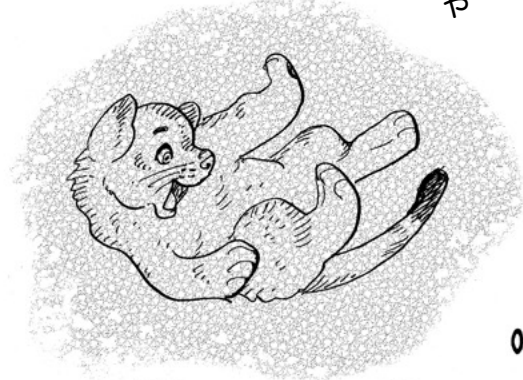
前が見えない

どいてくれ!

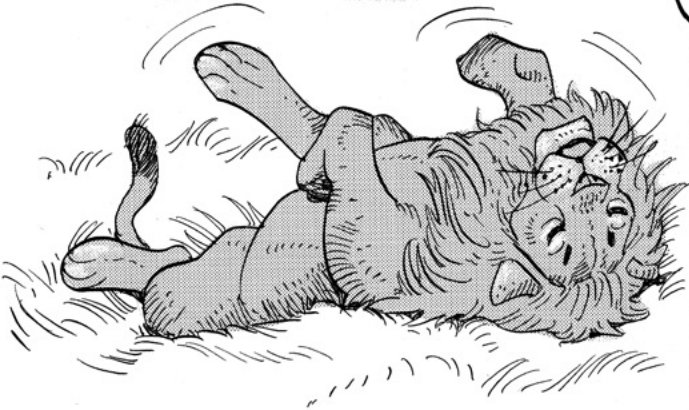


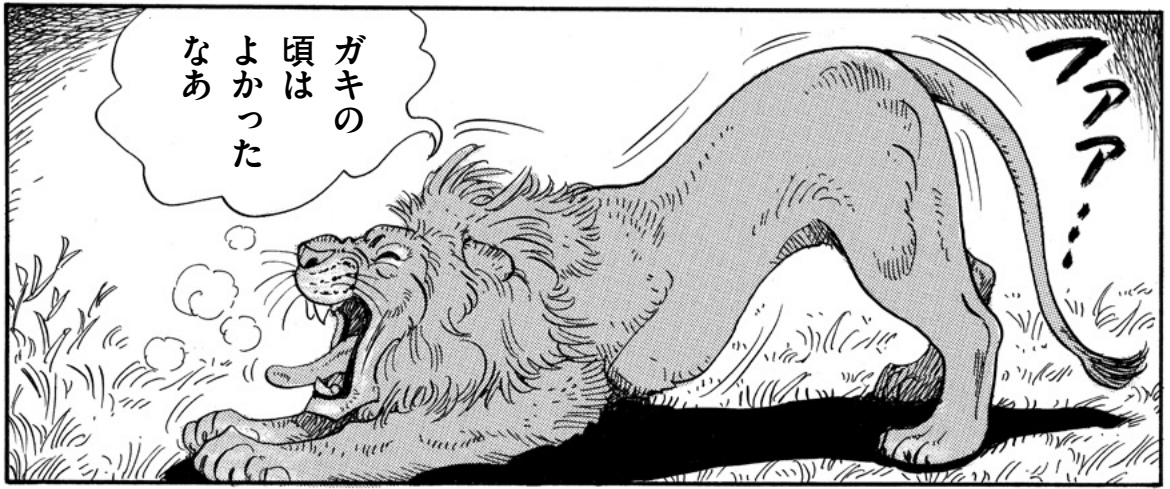
助けてくれてありがとう
勇氣あるのね

あんときののは
勇氣
なんかじゃ
なかった
ただ
ビックリ
して
岩から
すべった
だけ

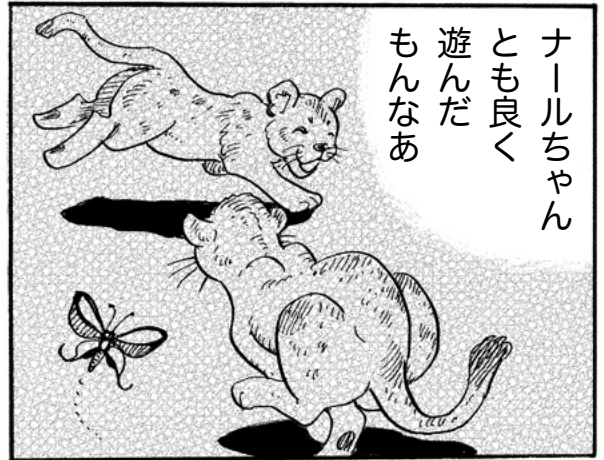
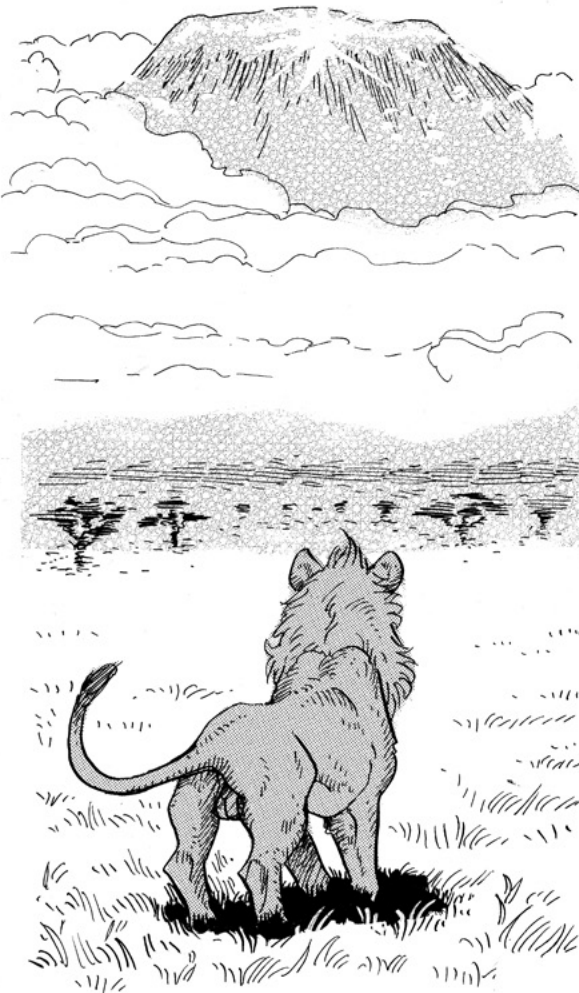


わたしも
チビちゃん
たちに
名前をつけて
あげるわ





突然
ジャロの前に
見える
はずの
ない
キリマン
ジャロ山が
聳えて
いた！



成長するに
したがって
現実
ふりまわされて
一日一日がただ
過ぎていく